

●●●インタビュー●●●

次世代イントラネットのインフラ構築ビジネスを積極的に推進

インテル系プラットフォームの処理性能の向上や仮想化技術によるシステム統合の普及など、イントラネット構築を支えるITインフラ技術は大きく進化している。NTTデータでは、本年4月より、IAサーバを使ったイントラネットのインフラ構築ビジネスを推進する専門部隊を新設し、Windowsプラットフォームソリューションやサーバ統合ビジネスの展開を加速している。イントラネットのインフラ構築に向けたNTTデータ 基盤システム事業本部の最新の取組みについて、山田伸一常務執行役員・基盤システム事業本部長にうかがった。



(株)NTTデータ 常務執行役員
基盤システム事業本部長
山田 伸一氏

イントラネットの世代交代を ドライブする専担部隊を設置

— 初めに、本年4月、基盤システム事業本部内にMS開発部を設置されましたが、その背景と狙いからお聞かせください。

山田 本当は1年前には組織を立ち上げたかったのですが、大規模プロジェクトが進行していた関係で本年4月となりました。ご存知のようにイントラネットは、今や企業活動の重要な基盤として位置づけられていますが、Web2.0技術を活用したエンタープライズ2.0などに代表されるように、イントラネットを取り巻く環

境が大きく進化してきました。特に、インテル系プラットフォームの処理性能向上や仮想化技術、グループウェアやワークフロー、コミュニケーションをはじめとする各種情報ツールなど、イントラネット構築を支えるITインフラ技術は急速に進化してきています。マイクロソフトは、OSの新バージョンに加え、SharePoint Serverなどイントラネット向け新製品をリリースしましたし、Windows Vistaの企業における導入も進み始めています。このような動向を踏まえ、私どもではイントラネットの世代交代が確実に始まると考えています。そこで、NTTデータの

クチャ構築に関する社内のノウハウを1カ所に集約・蓄積し、横展開するというのが狙いです。

— 2004年に、OSSの専門組織として「オープンソース開発センタ(OSDC)」を設置されましたが、それと同じような位置づけですか。

山田 OSDCのマイクロソフト・イントラネット版と言えます。イントラネットインフラストラクチャ構築に関する技術開発や事業本部などへの技術支援に加え、請負で構築作業まで行い、そのノウハウを社内に横展開していくというのが最大のポイントです。

次世代イントラネットに不可欠な技術・ソリューションを強化

— 新組織を設置して4カ月ですが、具体的にどのような取組みを行っていますか。

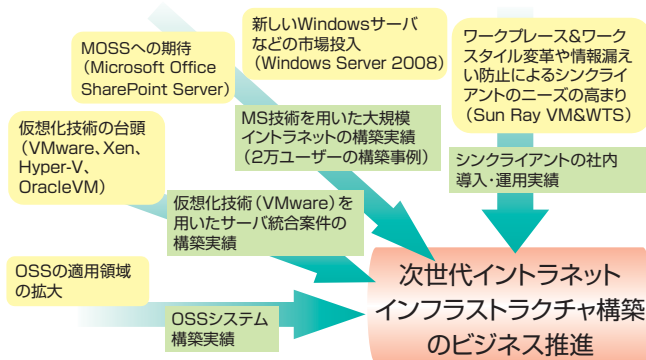


図1 イン트라ネットインフラストラクチャ世代交代の背景

イントラネットインフラストラクチャ構築ビジネスへの取組みを強力に加速・推進するための専門組織として「MS開発部」を設置しました。イントラネットインフラストラ

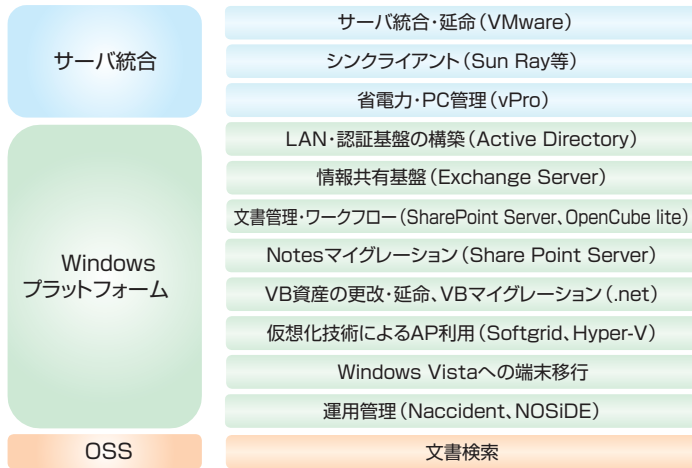


図2 イン트라ネットインフラストラクチャ更改に向けた取組み内容

山田 イン트라ネットインフラストラクチャの世代交代（更改）に向けて、次世代イン트라ネットインフラストラクチャ構築の重要な要素技術であるサーバ統合、Windowsプラットフォーム、OSSの3つのチームが図2に示すような展開を図っています。文書検索については、基盤システム事業本部システム方式技術BUのOSS技術統括部が中心となって、マイクロソフトベースのイン트라ネットと連携して動くようにOSS

を活用したソリューションを提供しています。

——組織を立ち上げて間もないですが、ビジネスの手応えはいかがですか。

山田 MS開発部を設置してまだ4カ月ですが、多数の引き合いをいただいています。内容はお客様のご予算の関係で来年度の案件が多く、冒頭で1年前に立ち上げたかったと申し上げたのは、昨年から各事業本部の営業提案を支援していれば、今年もう少し沢山の具体的な案件を獲得することができただろうという理由からです。しかし、タイミングとしては、Windows Server 2008がリリースされた今年の方がよかったという気もしています。

大規模イン트라ネットの構築実績を活かし、ビジネスを拡大

——最後に今後の抱負をお聞かせください。

山田 MS開発部は、2万ユーザーという大規模イン트라ネットの構築を行ったエンジニアを擁しています。この大規模イン트라ネットの構築実績に加え、今後集約・蓄積されるノウハウを活用して、次世代イン트라ネットインフラストラクチャ構築のビジネスを拡大していきたいと考えています。当面は、サーバ統合を中心としたイン트라ネットの構築案件が主力だと思いますが、将来的にはマイクロソフトプラットフォームを活用してパッケージを組み合わせるようなソリューションや.NETアプリケーションまではテリトリーにしていきたいと考えています。

——本日は有難うございました。

（聞き手・構成：編集長 河西義人）

●将来的には基盤システム事業本部の1つの柱となるよう提案活動に注力●

— 3年後、現在の2倍の組織への拡大を視野に事業展開 —

ビジネスの状況について、MS開発部の金子彰部長は、次のように語る。
 「昨年からは仮想化技術によるサーバ統合の動きが加速し始め、これを契機にシンククライアント導入を含めたイン트라ネット全体更改へと波及しています。実際、大規模なイン트라ネットの更改の案件がいくつかきていますが、中には数万ユーザーに及ぶ大規模イン트라ネットの更改に向けた案件もあります。私どもMS開発部と各パートナーが協力してWindowsベースのイン트라ネット構築を請け負って、各事業本部では基幹系業務アプリケーションのSIを行うといったように、シナジーを発揮できるような形で、上手く社内連携しながらビジネスを推進していきたいと考えています。3年後には100名規模に組織を拡大することを視野に、ビジネス拡大に向け取り組んでいます。」



(株)NTTデータ
 基盤システム事業本部
 MS開発部長
 金子 彰氏